

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502314		
法人名	医療法人社団 翔嶺館		
事業所名	グループホーム健寿館		
所在地	札幌市厚別区厚別東4条2丁目1番37号 (電話) 011-897-5699		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年12月4日	評価確定日	平成20年12月15日

【情報提供票より】 (20年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 10月 25日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 1~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000~52,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 15,000円 暖房費(11-3月) 9,000円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無 2年後返却	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要 (11月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	名	要支援2			
年齢	平均 83.5歳	最低	73歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌聖陵ホスピタル、新札幌ウィメンズクリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム健寿館は、全道に展開する医療および介護保険事業を抱える翔嶺館本部に属する事業所の一つで、札幌市郊外の住宅地、厚別地区に系列医療法人と隣接・一体化した建物で営まれている。医療法人とのつながりが強く、管理者(館長)が看護師であることもあって、医療面の対応は手厚く、リハビリテーションの高い技術によって身体、精神の機能維持・向上を実現しており、利用者の安心を得ている。管理者の強い信念と指導のもとに職員一同、深い信頼関係に結ばれて、利用者および家族の高い満足を得ている。近隣住民組織の希薄な中、機会を捉えて地元との交流を実現している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での主な改善課題であった、理念への地域密着の項目の取り入れ、地域住民との交流の拡大、市との連携強化、同業者との交流、共有空間の改善はいずれも真摯に取り組み、改善を実現し、あるいはその途上にある。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が参加する会議の席上で、項目ごとに説明しながら意見を出し合い、管理者の手でまとめあげられた。職員によって理解の程度は様々で、必ずしも十分とは言えないながら、日常業務の再点検や、地域密着の意義など、普段見えにくい視点の認識に有効な手段として活用されている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ほぼ2ヶ月に1回、定例で開かれており、近隣グループホームの館長、地域包括支援センター職員、家族などが参加して、利用者の生活状況、事業所の行事、家族の実情などについて話し合われている。地域包括支援センターによる家族のための勉強の場にもなっている。町内会にも働きかけているが、参加は実現していない。家族は協力的ではあるが、多少の遠慮もあり、活発に意見を出し合うところまではいっていない。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族と面談の折に努めて意見を聞き出すようにしているが、今まで、これといった苦情は上がってきていない。投書箱も設置しているが、たまに投書があっても、感謝の意を表したもののばかりである。管理者は、家族にとって、安心して預けていられればそれ以上の要望については遠慮がある、と謙虚に受け止めている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 職員一同、地域との連携の重要性は深く認識しているが、当施設は医療施設を含む大きな複合施設であり、住民組織は乏しい。そのような中において、家族の協力の下、他の町内会の行事に参加する、中学生のキャリア学習を受け入れるなど、地元との交流に工夫を凝らし、努力を重ねている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりを大切に、支えあう心、安心して暮らせる社会作り、という、従前の理念に、最近、「地域との交流を深めながら、孤立することなく生き生きと暮らせる」という項目を加えた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は食堂の目に付くところに掲示している。申し継ぎの場面や日常業務の現場で、気がついたことを指導する際に、管理者が理念に触れながらその根拠を理解させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員一同、地域との連携の重要性は深く認識しているが、当施設は医療施設を含む大きな複合施設であり、住民組織は乏しい。そのような中であって、家族の協力の下、他の町内会の行事に参加する、中学生のキャリア学習を受け容れるなど、地元との交流に工夫を凝らし、努力を重ねている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が参加する会議の席上で、項目ごとに説明しながら意見を出し合い、管理者の手でまとめあげられた。職員によって理解の程度は様々で、必ずしも十分とは言えないながら、日常業務の再点検や、地域密着の意義など、普段見えにくい視点の認識に有効な手段として活用されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ2ヶ月に1回、定例で開かれており、利用者の生活状況、事業所の行事、家族の実情などについて話し合われている。家族は協力的ではあるが、多少の遠慮もあり、活発に意見を出し合うところまではいっていない。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	規定の行政事務について区役所を訪問し、相談し、助言・指導を得ている。それ以外にも折を見て訪問しているが、これまでのところ特別な連携の課題は生まれていない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠方のため滅多に来訪できない家族もあるが、大半は月に数回の来訪があるので、その折に利用者の近況を報告し、要望に応じて介護記録も見せている。毎月便りを発行し、事業所全体の様子を知らせるとともに、個人別の状況報告も載せている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と面談の折に努めて意見を聞き出すようにしているが、今まで、これといった苦情は上がってきていない。投書箱も設置しているが、たまに投書があっても、感謝の意を表したものばかりである。管理者は、家族にとって、安心して預けていられればそれ以上の要望については遠慮がある、と謙虚に受け止めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動や離職を防ぐ努力をしている結果、関連法人間での異動はなく、離職する職員もほとんどない。新しい職員は、はじめの数日、直接利用者に関らない業務から始めて、段階を踏んで馴染むようにしている。離職する職員は、利用者の尊厳を守る立場から、必ず挨拶をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修は毎月行っている。外部研修は、職員に情報を提供して自主参加を促している。毎年、研修参加・資格取得の年間計画を立てているが、今年は勤務上の都合で、外部研修には参加できなかった。日常業務の中では相互に気づいたことを指摘し合い、管理者が指導して資質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌および厚別区の管理者会議に参加して同業者との交流を図り、個別に相談しながら相互訪問見学をしたり意見、情報の交換を行ったりしている。現在のところ、同業者との交流は管理者レベルまでであるが、他事業所の職員の見学は受け入れられている。	○	当事業所からも一般職員を派遣し、訪問活動に参加できるような機会を設けるよう、期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の事前見学なしに入居するケースも多いが、入居後トラブルになることはない。事前に情報を把握してその人に合いそうな職員が対応したり、他の利用者との関係を測りながら、集団に自然に馴染んでもらえるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者も出来る範囲の役割分担を持つよう、配慮し、共に支えあう関係を築いている。生活の知恵に教えられることも多い。利用者は職員をねぎらい、職員に協力し、精神的な支えとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿うように努力はしているが、管理者は、沿いきれていないという思いを持っている。観察によって機嫌がわかり、それまでの言動と照らし合わせることで理由の推測をしたりして、一人ひとりの意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成者は、家族、本人の意向を聞き、医療、身体的・精神的な面のアセスメントから課題をとりあげ立案している。その過程で、作成者は実際に自らケアを行った上、職員との情報交換の中で、現状に即した介護計画を作りあげている。その内容を家族に説明し、また、分かる利用者にも会話の中で確認を取り実行に移している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとのカンファレンスで見直している。病状や心身機能の状態が変わった場合には、新たな計画書を作成して家族の了解を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の負担を考慮し、通院の同行や送迎をしている。管理者は看護師なので医療ニーズの高い利用者には、協力病院と連携しながら必要な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望があれば、協力病院以外の受診も可能である。整形外科や眼科などの専門的な治療が必要な時は、ホームの送迎で受診し主治医と連携をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合や看取りについても説明し同意を得ている。終末期については時間の経過や状況によっては変わるので、最終段階になってから具体的な話し合いになる。ホームの環境で最期を迎えるのは夜勤の配置条件など、幾つかの課題があり、実質的に難しいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は言葉遣いやプライバシーに注意を払い、気がついた時はその場で指導している。職員は威圧的な態度や幼稚な言葉遣いに注意しており、話し方は丁寧で、温かみがある。個人情報などの書類は決められた場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前は活動時間、午後は入浴を兼ねた休憩時間と大まかに分けているが参加は強制しないで、一人ひとりの過ごし方に対応している。利用者から希望があってもすぐに応じられない時はきちんと説明し、できるだけ叶えるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来ることをお願いし、調理、配膳、下膳などを職員と一緒にやっている。食器を選び、料理の彩りを添え、目でも楽しむように工夫している。食べることに集中できるように静かな雰囲気をつくり、食事が終わったところで会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができる態勢を整えている。入浴は午後から始め、楽しく入浴できるよう音楽を流したりして、リラックスできるように配慮している。利用者の希望に沿って週2～3回は入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶碗洗い、食器拭き、洗濯物たたみ、花の水やりなど、利用者の役割をつくり、作業を通して日常の動作が維持できるように取り組んでいる。外食、公園でのおにぎり食、ベランダでのバーベキューなど、食べることが一番の楽しみになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、近くの公園で保育園児と会話を交わしたり、住宅の花を見せて貰ったり、協力病院のロビーまで出かけたりして、その時の交流を楽しみながら交代で散歩をしている。行きたくない人でもベランダで外気浴ができるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は1階の玄関に鍵を掛けていない。居住の2・3階の入り口には鈴を取り付け、出ていく気配に注意をして安全に努めている。また、3階の居間にモニターを設置し危険がないように見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災避難訓練は年に2回実施している。訓練は隣接している協力病院と合同で行っており、利用者も参加している。避難誘導の際には本人に違和感を与えないように各表札の上に色分けした「折り鶴」を貼り、誘導の識別がすぐできるように工夫している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスなどは食材委託業者の管理栄養士が管理している。食事・水分量は個人のバイタルチェック表で把握し、水分量は飲み物を工夫し、個人の目標量確保に努めている。食事量が少ない人には個人表をつくり、補助食で充足していることを全員が確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い廊下の両端に、テーブルとソファを置き、季節の小花や絵が飾ってある中で、ゆったりと自然を見ながら贅沢に過ごせる空間を作り出している。居間兼食堂の窓からも自然を楽しむことができる。トイレのドアを開け電気をつけたままにしてあるが、利用者が迷わず自然にトイレが分かるような心遣いも見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に作った表札が掲げてあり、居室は広く、洗面台が設置されている。使い慣れた家具調度品や飾り棚などが持ち込まれ、生活感が感じられる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。